電子銃シミュレーションについて、 および HOM randomization の効果

羽島 良一 日本原子力研究開発機構 2007年1月19日

HOM randomization の効果(1)



HOM randomization の効果(2)



HOM randomization の効果(3)





電子銃シミュレーション

これまでの高輝度電子銃(入射器)と異なる
 → 多数パラメータを含んだ最適化計算

→ より高精度の計算(0.1mm-mrad)

→ 複雑な物理現象を考慮した計算

• 小さなエミッタンス ($\varepsilon_n \sim 0.1$ mm-mrad)

カソードモデル=光電子生成過程、表面における空間電荷など 高精度の計算=粒子数、メッシュ数を増やす(?)

合流部に偏向磁石を含む

CSR、非慣性軌道の空間電荷効果

大きな平均電流 (I ~ 100mA, CW)

イオン捕獲の影響、放射線防護の観点からビームハローの除去

光陰極DC電子銃のシミュレーション



容易に拡張できるシミュレーションコード(自作が望ましい)

PASTEL – PArticle tracking SimulaTor for Electron Linac



DC電子銃の計算ができるように拡張(2006)



有限の粒子数に起因する人工的なノイズ

アノード下流20cmにおけるエミッタンス(77-pCバンチ、空間電荷あり、ソレノイドなし)



PARMELAにおける粒子生成ルーチン

PARMELA manual (type 9 INPUT = Gaussian distribution)

Then the routine generates a series of numbers called the Hammersley's sequence. ["Modified Parmela particle input routine," RLS:05-96, October 22, 1996.] describes the effect of the Quiet start routine *Type* 9 INPUT lines.



FELシミュレーションにおける "Quiet start"

FEL "shot-noise" から成長する不安定性現象

shot-noise = synchrotron radiation

$$\frac{d^2 I}{d\omega d\Omega} = \frac{e^2}{3\pi^2 c} \left(\frac{\omega \rho}{c}\right)^2 \left(\frac{1}{\gamma^2} + \theta^2\right) \left[K_{2/3}^2(\xi) + \frac{\theta^2}{(1/\gamma^2) + \theta^2}K_{1/3}^2(\xi)\right]$$



マクロ粒子を使うとき shot-noise を過大評価してしまう可能性がある。

"quiet start"の二つの方法 規則的な粒子生成+微小揺らぎ $\delta^2 \approx 3n/N$ n: # of macro particles N: # of electrons 10.1 δ γ 10 γ 10 γ 10 γ 10

γ



11

Low discrepancy sequence (LDS)



Monte Calro integration

$$\int_{V} f dv = \frac{1}{N} \sum f(x_i)$$



Numerical Recipes in C, 2nd ed.

.

LDS in various applications

LDS is used in various applications nowadays.

• financial analysis;

Monte Carlo simulations of trends in bond markets (derivatives)

computer graphics; ray tracing



モンテカルロ法 東北大学大学院 情報科学研究科 システム情報科学専攻 徳山研究室所属 博士課程前期1年 関野剛永

• Moiré-free LCD panel



ERL,ビームダイナミクスWG、2007年1月19日

PASTEL Simulations with LDS



(1) generation particles with random Gaussian in (x, y)(2) random Gaussian in "z"

- (1) generation particles
 - in (x, y) with Hammersley's sequence
- (2) random shuffling of the particles
- (3) regular Gaussian distribution in "z"

ノイズは除去すべきものなのか?



ー部の粒子が"コア"から外れて エミッタンス増大に寄与する (粒子の初期分布に依存)

> 除去すべき数値ノイズ?
> ビームハローに関連する 意味のある現象?

(放射線防護の観点からERLs の 周回ビーム損失は10⁻⁷以下が 求められる。ビームハローの生成と 除去は重要な研究対象。)

FELシミュレーションでは、最大成長率をもつ不安定性が既知であり、 ノイズは、この不安定性の初期値として定量的な議論が可能

高輝度電子ビームの場合は?

Debye length for an electron beam



force = (smooth force) + (collisional force)

完全電離プラズマと同様に、電子ビームにおいて「デバイ長」を定義する

デバイ長の内側の粒子 → 衝突力を与える デバイ長の外側の粒子 → 空間的に滑らかな力を与える

M. Reiser, "theory and design of charged particle beams"

電子ビームにおけるデバイ長



衝突力に起因する現象

縦方向、横方向の 電子温度の緩和現象 (低エネルギー)

バンチ内散乱 (高エネルギー蓄積リング)

$$\lambda_D = \frac{\widetilde{v}_x}{\omega_p} = \left(\frac{\varepsilon_0 \gamma^2 k_B T}{e^2 n}\right)^{1/2} = \left(\frac{\gamma^2}{4\pi r_c n} \frac{k_B T}{mc^2}\right)^{1/2}$$

NEA photo-cathode + DC gun $\rightarrow k_B T \sim 35 \text{meV}$



N_D:デバイ長を半径とする球内に含まれる電子数

N_D >>1 → 空間的に滑らかな電荷分布と外力を仮定できる

 $N_{p} \leq 1$ > 少数の近接電子による瞬間的な反発(衝突)を考慮しなければならない

上の例は近接電子による衝突力を無視できないパラメータ領域にある

-- ビーム温度(熱エミッタンス)が衝突で変化する可能性を詳しく調べる必要性。

まとめ

ERL放射光源のための電子銃シミュレーションに特有の課題として

 複数パラメータの最適化

 小さな熱エミッタンス(衝突力が無視できない)
 カソードモデル、イオン捕獲の影響、ビームハロー生成のメカニズム

- これら物理現象を取り込み、かつ、高い精度でシミュレーション可能なコード が求められる → 自作コードの拡張
- 多数粒子、多様な物理現象の取り込み = 計算時間の増大
 →おそらく許容範囲

国内研究者の協力のもと、複数のシミュレーションコードの ベンチマークを実施する予定(DC電子銃、RF電子銃)

水野(SPring-8)、楊(阪大)、増田(京大)、濱(東北大)、山本(秋田高専)他